

## 解答

一

- 問1 ア  
問2 ウ  
問3 オ  
問4 自分が他者に囲まれた価値ある人間として見られているかどうかということ、自分に承認を与えてくれる他者がいるかどうかということ。  
問5 価値観の多様化  
問6 ウ  
問7 イ

二

- 問1 l  
問2 a カ  
問3 A エ  
問4 B b ウ  
問5 C ア  
問6 オ  
問7 二日間弘晃を探し、やっと祖父の所にいるとわかったはずなのに、弘晃の様子を心配するのではなく、弘晃の勉強が遅れることを心配しているという父親とは思えない愚かな点。  
問8 ウ エ

三

- ① 忠告  
② 座右  
③ 郷里  
④ 破竹  
⑤ 貧困  
⑥ 君臨  
⑦ うやま〔う〕  
⑧ うわぜい

## 解説

一

- 問4 同じ段落の中で「他者に囲まれた価値ある人間として自分が見られているかどうか、・・・そもそも承認を与えてくれる他者がいるかどうか、自分自身がつねに気を揉んでいるからです。」と述べられています。

二

- 問6 弘晃が家を出て二日、漸く息子の立ち寄り先として大阪の祖父のことを思いだした父親の雅雄に対し、路男の「え？何やて？」『勉強が遅れる』て・・・お前、それ本気で言うてんのか」という電話でのやりとりや、「良い歳をした息子のあまりの愚かさに、このド阿呆！と受話器に向かって罵声を浴びせていた。」という様子が描写されています。このことから、煮えたぎった憤怒は、雅雄の弘晃に対する接し方に対してのものだと考えることができます。